

# 風土記の丘の花だより<sup>149</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年8月27日)



猛暑は続きますが、少しずつ「夏の終わり」を感じるようになってきました。

143号でチラッと書きましたが、アキノタムラソウを訪れる「幸せを運ぶ青いハチ」ルリモンハナバチを探してきました。こんなきれいなハチです。これから増えてくると思います。散歩の途中で出会えたら、幸せがやってくるかもしれませんね。



先日からすでにお気づきの方も多いと思いますが、谷村家住宅の東側に大きな大きなバショウの花が咲いています。まるでバナナのように見えます。たしかにバナナに似た実ができていますね。木のように見えますが、じつは草なのです。幹のように見えるのは葉の付け根の「葉鞘・ようしょう」です。先の方に雄花、その後ろに雌花が付きます。



カエデドコロというつる草に黄色い花が咲いています(左)。写真は雄花です。一緒に絡みついているものにヤマノイモがあります。その花は白くて、上を向いているのが雄花(中)、下に垂れているのは雌花です。(右)



同じくつる草のナツフジも花を咲かせています。白に近いす黄色の小さな房のフジです。万葉集にも詠われていて「我がやどの時じき藤のめづらしく今も見てしか妹(いも)が笑まひを」という歌が残っています。「時じき藤」とは、季節外れに咲く藤のことで、ナツフジを指しています。



あちらこちらでセンニンソウの白い花が咲き始めています。これもつる草です。園芸種に「クレマチス」とか「テッセン」がありますが、それらと同じ仲間です。これからきれいになることでしょう。松下